

平成26年度

まちづくり懇談会実施結果報告書

(西原地区)

宇都宮市総合政策部広報広聴課

**平成26年度 第9回  
まちづくり懇談会《西原地区》実施結果報告書**

この実施結果報告書は、まちづくり懇談会《西原地区》における発言の要旨をまとめたものです。

- 1 開催日時 平成26年11月27日（木）午後6時30分～午後8時
- 2 開催場所 西原地域コミュニティセンター
- 3 参加者数 24人（市出席者除く）
- 4 市出席者 市長，総合政策部長，広報官，地域まちづくり担当参事，  
中央市民活動センター所長，道路保全課長，広報広聴課長

5 懇談内容

(1) 地域代表あいさつ

西原地域コミュニティ協議会会長

(2) 市長あいさつ

(3) 地域代表意見

No.	テ ー マ	所管課
1	西原小学校のプール及び体育館の改築について	学校管理課
2	西原小学校のナイター設備の存続について	スポーツ振興課 学校管理課

(4) 総合計画の6つの柱に基づく意見交換

テ ー マ		
都市のさまざまな活動を支える都市基盤の機能と質を高めるために ○円滑で利便性の高い総合的な交通体系を確立する		
No.	意 見	所 管 課
1	交通政策について	交通政策課 L R T整備推進室 道路建設課 東部区画整理事業課 学校健康課

(5) 自由討議

No.	要 望	所 管 課
1	歩車分離式信号機の導入について	生活安心課
2	セシウム検査結果情報提供について	農業振興課
3	地産地消のPRについて	農業振興課
4	LRTについて(1)	LRT整備推進室 財政課 広報広聴課
5	LRTについて(2)	LRT整備推進室

(6) 市長謝辞

## ■地域代表意見 1（要旨）

テーマ	西原小学校のプール及び体育館の改築について
-----	-----------------------

数年前も発言させていただき、市長にはプールを見ていただいてプールの内側の塗装を直していただいた。西原小学校のプールは昭和28年に建設された歴史のある古いプールである。

入口を入れて更衣室、足洗い場、消毒槽、シャワー、目を洗う水道がある。自分が小学生の時に使ったものが今も現役で毎年修理をしながら使われている。プールの水のろ過機、ポンプは毎年壊れている。子ども達の口から入ったり身体に付着したりした際に危険性がいろいろあると思うのでプールのポンプの修理をぜひお願いしたい。子ども達の安心安全を考えてプールの改築を要望したいと思う。

次に体育館についてだが、昭和50年の建設から39年経っている。体育館の天井には照明が41個付いているが、電源を入れると11個点かない。2階に上がる階段があり、そこにも照明が付いているが電気が点かない。2階の卓球室の電気も1個も点かない。

トイレは和式であり、それが今も変わっていない。現在子ども達が使用しているトイレは洋式が主流だと思う。プールのトイレも和式のままであり、女子は水着だとトイレが使いにくいということもあるのでトイレについても考えていただきたいと思う。

また、窓はアルミサッシで鍵も指一本で開く窓が普通だと思うが、当時の鉄製の窓枠であり、さび付いてがたがたして開かない窓がある。鍵は調べたところ20箇所も壊れていた。鍵が壊れているということは外部から侵入される危険性があるのではないかと考えている。

ステージの下にはパイプ椅子を収納するところがある。その扉もがたがたしており開閉に不便する箇所がある。

体育館でバレーボールをさせていただいているが、その際にポールを立ててネットを張る。ポールを立てるために、床のふたを開けて穴に入れるが、それが歪んでおり、穴に差し込んでも斜めになっているので、ネットを張ると抜ける危険性がある。すぐに、壊れていないものを使いたいと思っている。

また、体育館は西原小学校の東側にあり、道路を挟んで民家がある。窓を開けると子ども達がボールをつく音や運動をする声はかなり聞こえる状況なので体育館を建て替える場合、プールがある側には一条中学校と特別支援学校が移転するのでそちらに体育館を設置すれば騒音問題も解決すると思う。

西原小学校は次世代を担う子ども達がたくさんいる。西原小学校からもノーベル賞を受賞できるような子ども達が育つのではないかと考えているのでぜひよろしく願います。

自分は宇都宮市PTA連合会の常任理事をしているが、PTA会長同士で話をしていの中で防犯カメラの設置もしていただけると、犯罪の未然防止にもつながると考え

る。

<b>回 答</b>	<b>所管課：学校管理課</b>
------------	------------------

【市長】

今、校舎、体育館の耐震化を急ピッチで行っている。当初の予定では50年あるいは70年くらいかかる見込みでいたが、阪神淡路大震災、東日本大震災を受け、行政としても国に働きかけるだけではなく自助努力で耐震診断、補強を行ってきた。一条中学校と富屋小学校の体育館については平成28年度になると思うが、それ以外については来年度全ての耐震化が終了する予定である。

その後は、体育館、校舎、プール等も維持が出来るようにしっかりと管理をしていきたいと思う。古くなった順から、国の補助等が付けば建て替えに入っていく。今でも計画性を持って建て替えをしているところであるが、耐震補強をしたばかりで建て替えるというのは不合理であるので、そうしたことも踏まえて小中学校の施設の管理を進めていきたいと思う。

また、鹿沼市ではプールを廃止にするとした。いくつかのエリアに分けて地域で一つのプールを共有したり、市のプールへ子ども達をバスで送迎をして体育の授業などを行っている。宇都宮市は子ども達には自分の小中学校でプールの授業が出来るようにしていきたいと思っている。

西原小学校のプールは前回もご指摘をいただいた。出来るところは改善をしてきたが、すぐに建て替えは出来ない。ほかの地区の小中学校にも古いところがあり、西原小学校はもちろん古いほうなのだが、横川西小学校なども古く、あそこは地元の方々が造ってくれたプールである。そういう事情があり、建て替えについてもご理解をいただきながら進めていくことになる。西原小学校のプールのろ過機は平成24年に修繕を行った。見えにくいところなので、学校がというより教育委員会が皆様にしっかり説明をさせていただければよかったのだと思う。そして平成25年には循環ポンプのコンデンサーを修繕した。点検報告では今のところ異常はなく、安全であるということである。

プールの更衣室については今年11月に天井の塗装工事を行った。そのほか、プールのお水槽やプールサイドの調査をしているが、今のところ、まだ修繕の必要はないということである。

しかしながら、子ども達が使っていて突然に不具合が生じたり、見た目では気づかなかったところが出てきたりという時には修繕はしっかりとするのでご指摘をいただければ修繕をさせていただきたいと思う。

体育館の窓、扉の開閉はプールの更衣室の修繕と併せて行ったところだが、電気が点かないところがある、鍵がかからないところがある、ステージ下のパイプ椅子を収納しているところの開閉が悪い、バレーボールのポールがしっかり入らないというご指摘をいただいた。授業に支障があるものは当然修繕をしていくので、後日、拝見をさせていただいてすぐに手配をしていきたいと思う。

また、トイレについて、宇都宮市は公共施設全ての建て替え、またはトイレにまで及ぶ大規模な修繕の場合は、全て和式から洋式に変えているが、全てを一斉に変えることは出来ない。今は子ども達が和式を使わないので使いづらいということに加えて、外国人観光客の方々が増え更に呼び込もうとしている中で、洋式を設置することが必要であることから、現在洋式の設置を進めている。学校については、大規模改造あるいは改築に併せて洋式化を進めている。どうしても古いところ、大規模改造や改築が先になるところは当然トイレの修繕も考えていかなければならないが、今のところ各フロアに洋式を必ず1つ付ける修繕を行っている。

最後に、学校の犯罪被害を未然に防ぐということで防犯カメラ設置のご提案をいただいた。市としても学校施設、公共施設、地元の商店街や多くの不特定多数の方が集まりやすいところに防犯カメラの設置をこれから考えていきたいと思っている。特に学校は無くてはならないものだと思う。

ご指摘いただいたところを全て点検して必要なところは直していく。

## ■地域代表意見 2（要旨）

<b>テーマ</b>	<b>西原小学校のナイター設備の存続について</b>
------------	----------------------------

西原地域のスポーツ愛好団体の活動や、地域の長年にわたり行われている多くの行事は、西原小学校の校庭を使っているものがほとんどであり、特に「納涼祭」「どんど焼き」「ソフトボール大会」では、西原小学校のナイター設備の利用は必要不可欠である。また、地域の行事の多くが週末に行われるため、平日、夕方から夜間にかけて準備するなどナイター設備が必要となっている。市では、各地域に一箇所、中学校にナイター設備を設置すると聞いているが、一条中学校の移転後、ナイター設備も移転することになれば、果たしてこれまでのように地域の行事が続けられるのだろうか。中学校ではクラブ活動により校庭やナイター設備の利用が制限されることも想定されることから、地域活性化を目指しこれらの行事を続けていくためにも西原小学校のナイター設備の存続を要望する。

<b>回答</b>	<b>所管課：スポーツ振興課、学校管理課</b>
-----------	--------------------------

【市長】

ナイター設備は、中学校の地域開放ということで各中学校にナイター設備を設置し、開放している。地域のスポーツ振興を図る目的で昭和52年度から整備を行い、照明設備を各中学校区に1か所設置をしてきた。学校施設であるので当然地域の皆様へも開放をしてきた。

一条中学校区については、一条中学校の校庭が大変狭いという理由から、代わりに近隣の西原小学校に設置した経緯がある。

現在整備をしている一条中学校の校庭は、高等特別支援学校と一体的に利用できる

ように計画されている。その広さは、現在の一条中学校や西原小学校の校庭の約2倍になる予定である。

校庭には、野球場1面、サッカーコート1面を配置するとともに、西原小学校にあるナイター設備は一条中学校に移転する予定であり、移転後も小学校・中学校ともに地域の皆様には利用していただけるように学校長にお願いをしている。

特にナイターとして使用する場合であるが一条中学校の学校長には話をさせていただき、地元の方々が使う際にはどんど焼きも含めて快く使わせていただきたいと話をさせていただいた。学校長からは快諾していただいた。ただし、占有する期間が長いものは難しいものだと思う。特に「納涼祭」がある夏は部活動が佳境に入る時であるので兼ね合いをぜひ学校長と行っていただきたいと思う。3～4日間、校庭で部活を行えなくなる状態になると学校長もつらい立場になると思うので、具体的に話を進めさせていただきたいと思う。基本的には地域の方々に開放して地域の方々に十分に使っていただける施設としていきたいと思う。

## ■総合計画の6つの柱に基づく意見交換（要旨）

テーマ	<b>都市のさまざまな活動を支える都市基盤の機能と質を高めるために</b> <b>○円滑で利便性の高い総合的な交通体系を確立する</b>
-----	---

総合計画は宇都宮市が進むべきまちづくりの方向を見定め、それに向かって取り組んでいくための指針である。つまり羅針盤のようなものであり、まちづくりの最も基本となる計画と言えるものである。

### ○円滑で利便性の高い総合的な交通体系を確立する

宇都宮は平成29年には51万8千人という人口のピークを迎えると推測している。その頃には4人に1人が65歳以上になり、その20年後の平成49年頃には約3人に1人が65歳以上になるという推測をしている。どの都市も超高齢社会、そして若い生産年齢の方々が減っていく人口減少が課題であり、さらに宇都宮は車社会である。宇都宮は県庁所在地の中でCO<sub>2</sub>の排出量が2番目に高いと言われている。免許の取得率または自動車の保有率が高いということは、車が使いやすい、車が無いと生活が出来ない土地である証だと思う。そうしたことから、公共交通が十分に整備され、過度に自動車に依存しない調和のとれた交通環境への社会的要請が高まってきている状況である。

また、各拠点の機能を連携・補完する軸として、また、子どもから高齢者まで誰もが利用しやすい交通環境をつくるため、円滑で利便性の高い総合的な交通体系を確立

し、しかもスピーディに行なっていくことが重要である。

そうした公共交通のネットワークが東西の軸となるLRTの導入であるが、まず、JR宇都宮駅東側から優先的に整備することとし、現在、事業化に必要となる具体的な調査・検討に取り組んでおり、平成28年度の工事着工を目指している。

また、JR宇都宮駅から桜通り十文字付近までの西側区間であるが、この区間のLRT整備についても計画があるので今後、順次、検討を進めていく。

また、公共交通ネットワークを面的に広げていく取組の一環として、西原地区を含めた中心市街地の南部において、新たなバス路線として「中心市街地南循環線」の社会実験を現在実施している。

平成25年10月1日からはアンケートなどで要望の多かった「双方向運行」を開始した。これまでの右周りに加えて左周りも運行し、目的地までの時間の短縮を図っている。この南循環線は4年前の西原地区まちづくり懇談会でご要望をいただきスタートをした。改めてアンケート調査を行っており、今後も地域の移動手段として継続していけるよう、特に交通弱者といわれる子ども、高齢者、障がい者の方々が移動できるまちをつくとともに、JR宇都宮駅への乗り入れなど、バス事業者と連携して自主運行への移行に向けて検討している。

「総合的な交通体系の構築により、公共交通や自動車、自転車などのあらゆる交通手段が相互に連携した、円滑で利便性が高く、安全でひとや環境にも優しい、誰もが利用しやすい交通環境がつくられています」という今後5年間での望ましい姿として目標を設定した。

LRTの導入のほかに、バス路線の充実、南循環線西原地区と同時に駅東側の平松本町線も新たにバス路線として設置した。来年は今宮線としてアピタ方面から今宮・陽光方面のバス路線空白地域に新たに社会実験として進めていきたいと考えている。

郊外の本当に公共交通の空白あるいは脆弱な所、家と家が本当に離れていて車の移動も思うようにいかないところに地域内交通を現在設置している。来年には地区市民センターが設置されている地域全てにおける地域内交通の設置が完了する。

## 発言 1 交通政策について

交通問題全般に関わることだが、車の毎朝の通過交通が西原地区では六道の交差点や昭和通りなどがあり、道幅が広いのでスピードを出す車が多く、スマートフォンをいじったり、タバコを吸ったり物を食べたりしながら運転する人がいる。個人のマナーの問題なのかもしれないがそうした行為が気になる。鹿沼で6人亡くなった事故の現場を見ても模範的な歩道5メートル設置されているところであり、いくら整備されても子どもの通学路と幹線道路等が混在するのは潜在的な危険をはらんでいると思う。公共交通中心の考え方は良いと思うが、円滑的で利便性が高いというよりもまずはひ

とと環境にやさしいということを第一に掲げてほしいということが子を持つ親としての願いである。車でいくら便利になっても、必ずしも幸せになれるわけでも安心して暮らせるわけもない。多少不便になるほうが公共交通や自転車に乗ろうという気持ちに切り替えるきっかけになるし、公共交通の計画を立てるだけでなくひとにも優しいとか、顔の見える地域の関係があるほうが地域としても地域のつながりを維持しやすいと思う。高齢社会が進み、お年寄りにも住みやすい環境は子どもにとっても住みやすい環境である。車の通過交通を規制したり、地域によってはゾーン30で面的に車のスピードを規制したりするところもあると思う。通学路対策は結構だが限界があると思うので、特に中心市街地では公共交通に重きを置き、車の通過交通の規制あるいは一方通行にする。ある程度の所に公共交通が使えるものを作ってください、バスやLRTを利用していただくということを、ソフト面を含めて進めていただきたいというのが願いである。公共交通を進めていくのは結構だが車の賢い乗り方・使い方も進めて「脱・クルマ」の意識の浸透と交通規制も市が主体となり進めていただきたい。

<b>回 答</b>	<b>所管課： 交通政策課, L R T整備推進室, 道路建設課, 東部区画整理事業課, 学校健康課</b>
------------	--

【市長】

今まで車優先の社会を作ってきた。時代が変わるにつれて悲惨な事故や犯罪が増えてきた。構造自体を考えると最終的には教育だと思っている。きまりを守る、マナーを守るという本来の姿に戻さなくてはならないと思うが時間がかかることでもある。注意喚起を促す表示やゾーン30や通学時間帯の進入禁止などは地域の方々がまとまっていたければ警察も協議に応じていただけると思う。そして公共交通に転換をしていただける方は転換をしていただく。心にゆとりがないと様々な道に入り込み、しかもスピードを出し、時間に遅れないことばかりを考え、子ども達や歩行者に配慮が出来なくなってしまう。宇都宮は3環状12放射状線という道づくりになっている。東京方面や東北方面からの大型車などをなるべく中心市街地に入り込ませないように環状線などをつくってきた。特に陽南通りから宇大の東南を通り産業通りで接続する道路がいよいよ完成すると車の流れも変わると思う。車自体が中心市街地、あるいは子ども達の通学路に入り込まない対策をこれからも取って行きたいと思う。公共交通に乗りやすい環境、通勤・通学に公共交通を使いやすい環境をつくって行きたいと思っている。それは人にやさしく環境にやさしいという結論になると思う。また、ICカードを市民の皆様にお持ちいただきたいと思っている。これから検討していきたいと思うがLRTに併せて導入を図っていききたいと思う。全ての公共交通、地域内交通、バス路線あるいはLRT、東武線、JR線をICカード一枚で乗り降りができるものである。カードには個人の履歴が記録されているので例えば通学・通勤の方は40パーセント、50パーセントの割引になり、高齢者も高齢者割引で乗ることが出来る。

公共交通で通学、通勤をしていただける環境づくりも併せて行っていきたいと考えている。車から公共交通に転換していただくだけでCO<sub>2</sub>の削減のみならず経済的な効果も大きなものがある。高齢者の方々や高齢期に入る前の方々も公共交通で外出が出来るようになれば医療費が下がる。我々の世代から常に公共交通を使う習慣、歩いて外出する習慣をつけ、健康寿命を延ばしていく必要もあると思う。その観点からも公共交通の充実したまちをつくって行きたいと思う。

## ■自由討議（要旨）

### 発言 1 歩車分離式信号機の導入について

西原小学校の近くには平成通りが通っている。歩車分離式信号を導入したところ事故の件数が激減しているとテレビで見た。それを導入しているところがどのくらい増えているかという数パーセントである。事故が多発しているところはこういうものを導入していただきたい。

### 回答 所管課：生活安心課

【市長】

市役所の北側や二荒山神社のところに設置されているが、設置が広がらないのには理由があると思う。県警が所管なので話をしていくとともに、理由はわからないが安全面から必要などころには設置していただきたいと思う。どのくらい交通事故が減っているのかというデータも出ていると思うので話をする中で伺って市としても提案をしていきたいと思う。

### 発言 2 セシウム検査結果の情報提供について

広報うつのみや 11月号に地産地消の記事があった。セシウムの問題もだいぶ落ち着いてきたが、セシウムの検査結果がぽつぽつと出ると何が何だか分からなくなってしまふ。県の回答は「ホームページを見ればわかる」だったが、全ての人がホームページを見ることができたり、またはパソコンの操作が出来るわけではないので、広報で知らせるべきである。

### 回答 所管課：農業振興課

【市長】

農産物、畜産物も含めて東日本大震災の原発事故により、風評被害も含めて被害に遭われた農家が現在でもたくさん残っている。セシウム等の残量が、人間が食べる量を超えているものも原木しいたけをはじめいくつかある。友人同士でやり取りをしているものはわからないが、原則、今、出まわっている代金をいただいて販売している

ものは全て検査をしているので心配はない。ただ、それ以外について、どのくらいセシウム型が残っているのか、どんな地域に残っているのかについては我々も県のホームページ等を見ないとわからない。わかりやすさという点であれば広報紙などで工夫は出来ると思う。後で具体的な話を伺いたいと思う。

### 発言 3 地産地消のPRについて

地産地消について、本庁のエレベーター内に宇都宮市内のおいしい食料のポスターが貼ってあった。宇都宮は全国で餃子が1位とのことだが、せっかくおいしい料理があるなら、ホームページを利用して近県の人達、特に女性を呼び込み、宇都宮の地産地消を含めた活性化のためのPRをお願いしたい。また、ある部署へ行った際、ふるさと納税があるが宇都宮の財源確保のために宇都宮は何を送っているのかと聞いたところ、季節のものを送るのでわからないとのことだった。宇都宮の地産地消、活性化のために県外の方を宇都宮へ呼び込むため、ホームページ等を利用するのもやり方の一つだと思う。

### 回答 所管課：農業振興課

宇都宮のおいしいもの、梨のにっこり、トマト、苺といったものが宇都宮の名産であり、高級店で宇都宮のものを取り扱っていただけるほど宇都宮の農業のレベルも高くなってきた。

しかし、宇都宮の農産物を知っていただかないと全く意味がない。宇都宮内で消費していただくものもあるが、付加価値を高めて東京や海外に持っていき、高い値段で買っていただく。そうして農家の年収を高め、後継者不足、高齢化に悩んでいる農業に支援をしていくことも必要だと思う。併せてホームページや私のトップセールスなどで宇都宮の農産物、畜産物、それ以外の住みやすさや企業が進出しても操業しやすい利点をこれからもPRしていきたいと思う。

特に宇都宮牛は、行政も飼料代や仔牛を購入する場合の補助制度など支援をしている。大変優秀な宇都宮牛がつくられるようになったが、残念ながら宇都宮の皆さんには食べていただけないほど少ないのと、ほとんどが東京に行ってしまうのでもう少し支援をして宇都宮の方にもどんどん食べていただけるような農業面での戦略を行っていききたいと思う。

### 発言 4 LRTについて(1)

広報うつのみや11月号にLRTのことが書いてあった。上下分離方式について議会に出ていたが、素人なのでわからない。議員が質問して市長が答えているだけで我々には一向にわからない。LRTはあれば便利だと思うが、専門的な用語が市民に徹底されていない。自分はLRTに賛成でも反対でもないが、中身が分からないのでその

辺も前向きに、せっかく広報紙があるのでこういったものを使いながらPRをしていってもらいたいと思う。

<b>回 答</b>	<b>所管課：L R T整備推進室，財政課，広報広聴課</b>
------------	---------------------------------

L R Tの上下分離方式が専門用語でわからないとのご意見だが、行政としてはなるべくわかりやすい言葉を広報紙において使うことを心がけている。今までの公共交通というのは様々な都市で行ってきたが、ほとんどが失敗をしている。特に赤字運営に陥って失敗したところは当然のことながら、建設費、車両購入費、土地代など運営開始に至るまでにかかる全てのお金を民間の運営会社が支払い、運営の利益の中からそのお金を返していく方法を取っていた。ところが建設等のお金に費用が掛かりすぎるので民間だけでも行政が入った第3セクターだけでも難しいということで国の法律が変わり、上下分離方式になった。上下分離方式というのは、建設費、車両代など下の部分は全て行政が持ってもよい。そして運営会社は運営に特化して仕事が出来、第3セクターも含めて運賃やその他の費用を基に会社を運営することが出来るようになった。これから地方都市の公共交通を構築していくうえで上下分離方式がどんどん採用されると思う。

ちなみに宇都宮市も国と県と市で建設費、つまり下の部分を賄い、運営会社が決めれば運営だけを見ていただくことになる。下の部分について、国が2分の1を持ち、残りの2分の1が地方分になる。また、そのお金は一気に支払うものではなく、ルールとして20年間で返すことになる。

もう少し詳しく話をさせていただくと、今回、駅東について、清原工業団地、芳賀工業団地の社員一人ひとりにアンケート調査をお願いした。それによると、我々は当初、西から東に渡っての360億円、東だけで約260億円と見込んでいた。アンケート調査によると、通常のL R Tと快速があればという人も含めると19.1パーセントの方が、車あるいはバスからL R Tに乗ると言っていた。そうなるとうままで計画していたルートや本数、車両の数ではとても乗り切れないため、車両の購入費などが膨らみ、東側だけで約400億円かかるという計算になった。この400億円を国、県、市で賄うことになる。国が2分の1を持ち、県、市が200億円を持つ。この200億円は一括払いで払うのではない。20年間で返すことになる。元利均等ではないので最初は元金が省かれ、支払いは2～3億円からスタートして、最も多い時で約13億円になる。これは地方分なので県と市で半分ずつとなる。したがって最も多い時で約6億5千万円が宇都宮の財政から拠出される。では、6億5千万円は宇都宮の財政が破たんする金額なのかということだが、宇都宮の一般会計は約1,900億円であり、決算で1,900億円を超えている。今までも単独事業において、宇都宮市の1年間の財政の中で6億5千万円以上を支出しているのでこれぐらいの額で宇都宮市が破たんすることはない。

そして宇都宮の財政状態は本当に良いのかということであるが、財政力指数というものがある。それが中核市43市の中で宇都宮は上から4番目に良い状態にある。そ

して、国庫補助金、交付金、負担金を省いて、純粋に宇都宮市役所が稼いでいるお金である自主財源比率は、宇都宮は3番目に良い。そして皆様が気にされる市債残高つまり借金であるが、宇都宮市は中核市の中で6番目に少ない。市債残高は毎年減らし続けているので宇都宮市の財政は極めて健全であり、50万都市以上の中での財政健全度調査で、宇都宮市は1位という評価を2回いただいた。つまり、宇都宮市は身の丈の中で、財政的に許される中で社会的な課題を解決するための持続可能なまちをつくっていくためにLRTを含めた公共交通全体でまちをカバーして人口減少問題と超高齢社会、環境問題に立ち向かっていこうというものである。

上下分離方式についてはこういうことであるので、今後、わかりやすく、理解していただけるような、特に小学生高学年でもわかるような広報紙を今目指しているが、今一度しっかりと努力をしていきたいと思う。

## 発言 5 LRTについて(2)

中心市街地や宇都宮駅に行く時、バスを使う。LRTが大通りを作新学院まで通ると車はほとんど通れなくなってしまうのではないかと思う。他にも道路はあるので自家用車に乗る場合はそこを通るが、LRTが出来ると駅に行く時にバスはどのように乗り継がれるのか。一度LRTに乗り継がないと中心市街地に行けないのは自分にとっては不便になる感じがする。一度乗り換えなくてはならない不便さや待ち時間の不便さもある。今のバス路線のほうはずっと便利に感じるがその辺の具体的な交渉はどのようにしているのかお話をしたい。

## 回答 所管課：LRT整備推進室

【市長】

西側はJR宇都宮駅から桜通りまでを計画として考えているが、駅西側についてはまだバス会社との協議が整っていない。現在、駅の西側は1日約2,000本のバスが走っている。我々はバスを全てなくしてLRTを通す考えはなく、バスとLRTを大通りに走らせる計画だが、これまで郊外からのバスは大通りを通り全てJR宇都宮駅へ集合する形で走っていた。その結果、1日2,000本ものバスが大通りを通ることになったがLRTが通ればトランジットセンターをつくり、バスが停車した正面にLRTが来る、あるいはLRTを降りた正面にバスが来るという形を取ったり、バス停に各方面からのバス路線や地域内交通を結節させLRTと連絡をする、あるいはLRTがバスや地域内交通と連絡をする形を取り公共交通網をそれぞれ結節していく。東武宇都宮駅とJR宇都宮駅も同じ考えでLRTが結節することになる。大通りはLRTだけが通るのではなく車もバスも通ることになる。

また、現在計画の中で図面を作り上げているのは駅東側であるが、JR宇都宮駅東から国道4号までは上下それぞれ3車線の内の真ん中の1車線をそれぞれ潰してLRTを走らせ、それぞれ2車線を残すことになる。道路の幅が同じなので駅西側も同じ

ようになっていくと思うが、LRTだけではなく車やバスが通行出来るようにしていかなければならないと思っている。

朝夕の通勤時には直通でJR宇都宮駅まで行く便も残していかなければならないので地域のライフスタイルや要望や用途にあわせた運行の仕組みやルートを決めていきたいと思うので全く変わってしまうということはない。むしろ支線や地域内交通が増えたり新たなバス路線が設置されることにより利便性が高まって行くものだと思う。